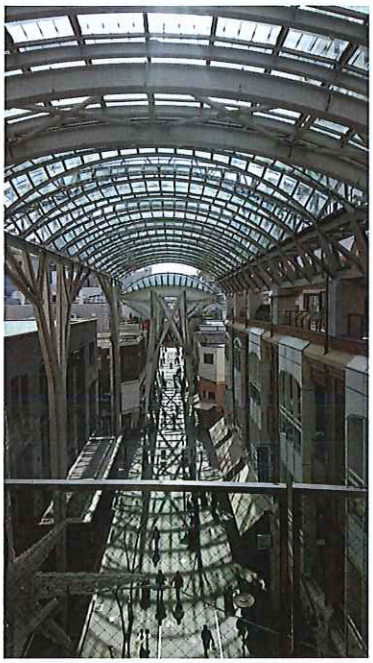
会派行政視察報告書

会派：フォーラム新桑名　氏名：愛敬 重之

1．視察先　：高松丸亀町商店街⇒岡山市⇒姫路市
2．視察日時：平成 31 年２月４日～５日
3．視察事項：高松丸亀町商店街のまちづくりについて。小中一貫教育について（岡山市･姫路市）２市
4．視察を通しての考察・参考となった事例・感想等

1．高松丸亀町商店街まちづくりについて

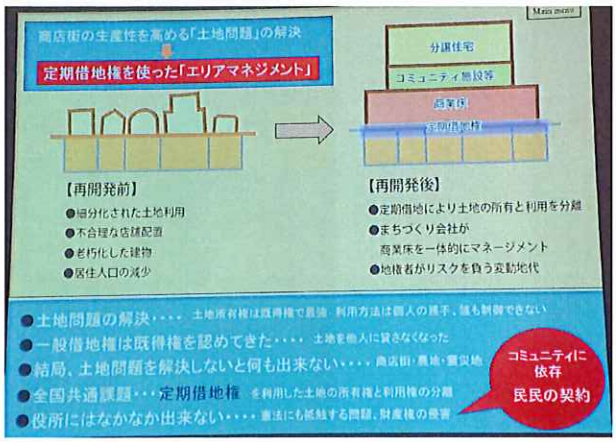


規模的には大きすぎてそのまま導入するのは困難のようですが、細かい部分では大変参考になりました。特に、土地問題の解決は参考になりました。民間ならではの手法かと感じました。

土地問題を解決すべく採用した手法が、**「土地の所有権と使用権の分離」**であった。地権者の出資で作ったまちづくり会社がすべての商店の地権者と定期借地契約を結んでその使用権を取得し、同社が建物を整備所有する。同社はテナントの家賃収入から銀行への返済、建物の管理費用などを差し引いた金額を地代として地権者に支払う。これを**「オーナー変動地代家賃制」**と呼ぶ。あえて地代を劣後とすることで、地権者はテナントの売上に関心持たざる得なくなり、テナントに売上

が上がらなくなければ地代は下がってしまいつまり、オーナー変動制地代家賃制は街の復興に地権者を半強制的に関与させる仕組みである。そして、土地の使用権をまちづくり会社が一括して持つことで、利害調整に手間取ることなく思うようなテナントミックス（業種の再編成）を行うことができる。**自分達の街を自分達で自らリスクを負う自治権をもって運営していこうという、新しい自治組織の形成が誕生する。**

業種の再編成、イベント、商店街外部の各団体、組織との連携、住宅整備、安心安全の街づくりなど、これからの人口減、高齢化社会に対応するまちづくりを実現させるすべての大前提は、土地問題の解決であり、土地の所有と利用を分離することによって初めて可能になる施策である。これが**エリアマネジメント**である。

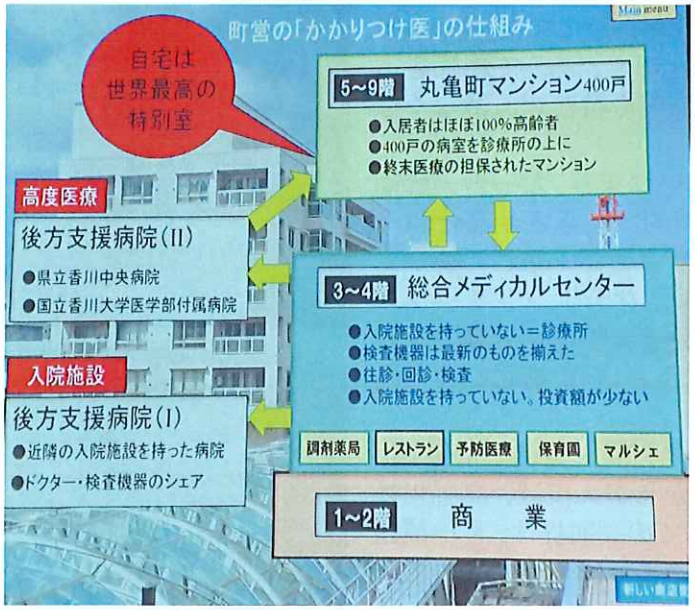


再開発成功の大前提はコミュニティーの現存

・丸亀町には脈々と 400 年間コミュニティーが現存していたからだそうです。その土台があったからこそ、地権者の合意が取れた。どれだけ優れたリーダーがいても、行政の支援があっても、地域のコミュニティーが崩壊しておれば開発は不可能だ。生まれ育った地元に対する熱意と「触媒」とコムニティーの存在こそが、再開発の必須の条件。

現在は、更に進化「コンパクトシティを目指して」

・小さくて住みやすいまち。高齢者にとって、女性や子供にとって、就業・文化活動・買い物・病院通いなどにも便利なまち。そんなコンパクトシティの実現を目指して、町の住民が自ら動く。実際にクリニックも完成しておりました。



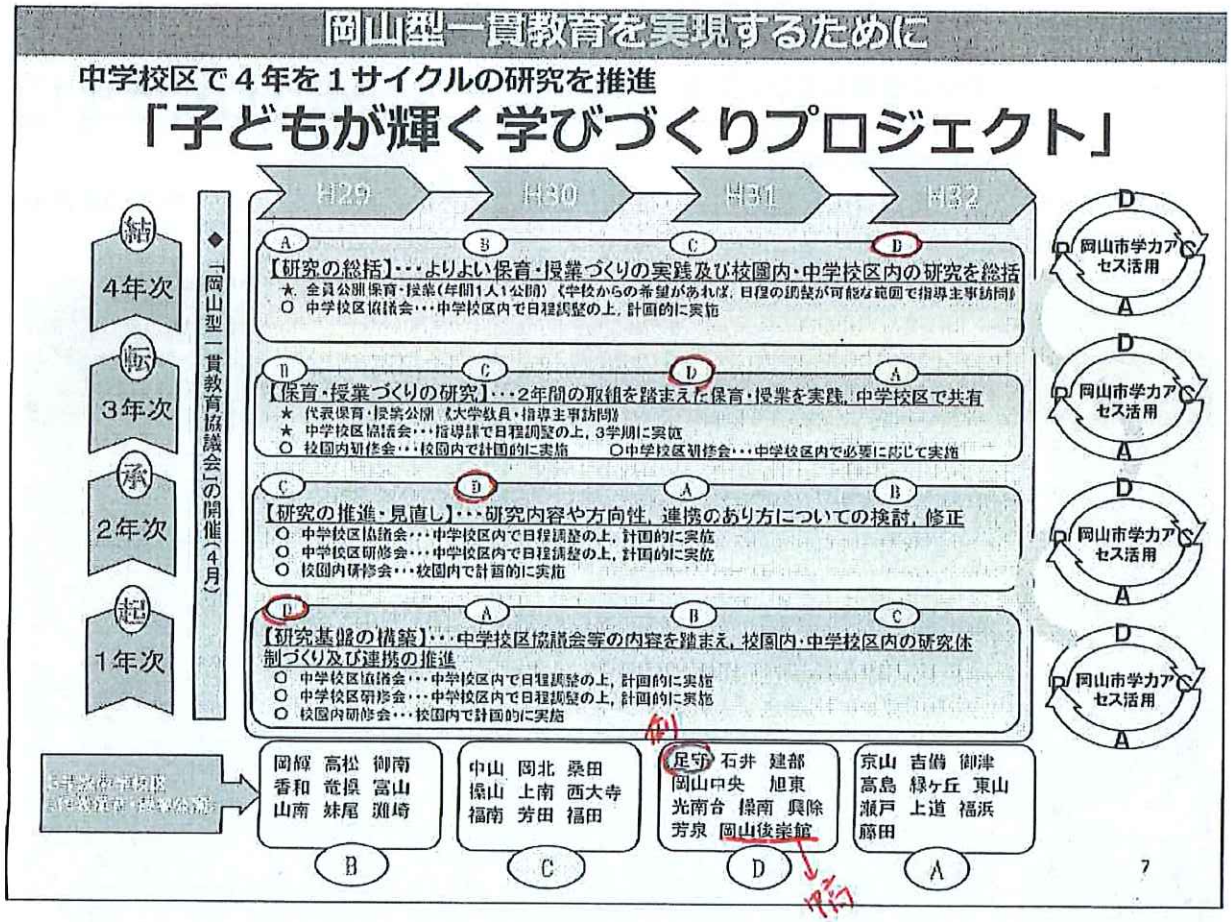
２．岡山市一貫教育について

岡山市では、中学校区ごとに重点的に育てるべき方向性を一貫するその方向に向け、段階的な指導を継続する岡山型一貫というシステムを組んでいました。岡山型一貫教育では共通の４つの視点がある。

① 中学校区の各校園の子どもの姿の理解
② 内容の連続性と、各段階の特徴の理解
③ 指導方法の連続性と、各段階ごとの工夫
④ 接続のための特徴的な取組

幼稚園・保育園・認定こども園、小学校、中学校、高校それぞれの校種の垣根を越えて子どもの段階的な成長を捉え、子どもの学びについて語り合えることができる。

一貫教育を実現するために、中学校区で４年を１サイクルの研究を推進しているようです。



Ｄグループを例にしております。実施して 10 年が経過したようですが、ようやく結果につながってきたようです。

基本的には、地域から統合の話が出てきてから動くようです。

岡山市ではその他に、「岡山市市民協働による自立する子どもの育成を推進する条例」や「ＥＳＤ活動＝持続可能な開発を促進するため、地球的な視野をもつ市民の育成活動」が活発なため、地域と学校の連携が十分できて、一貫教育が成り立っていると思いました。

２．姫路市の小中一貫教育について

学校として　・どのような子どもを育てていくのか、中学校ブロック（中学校区）ごとに、**「目指す子供像」の小中一貫教育目標を設定**する。

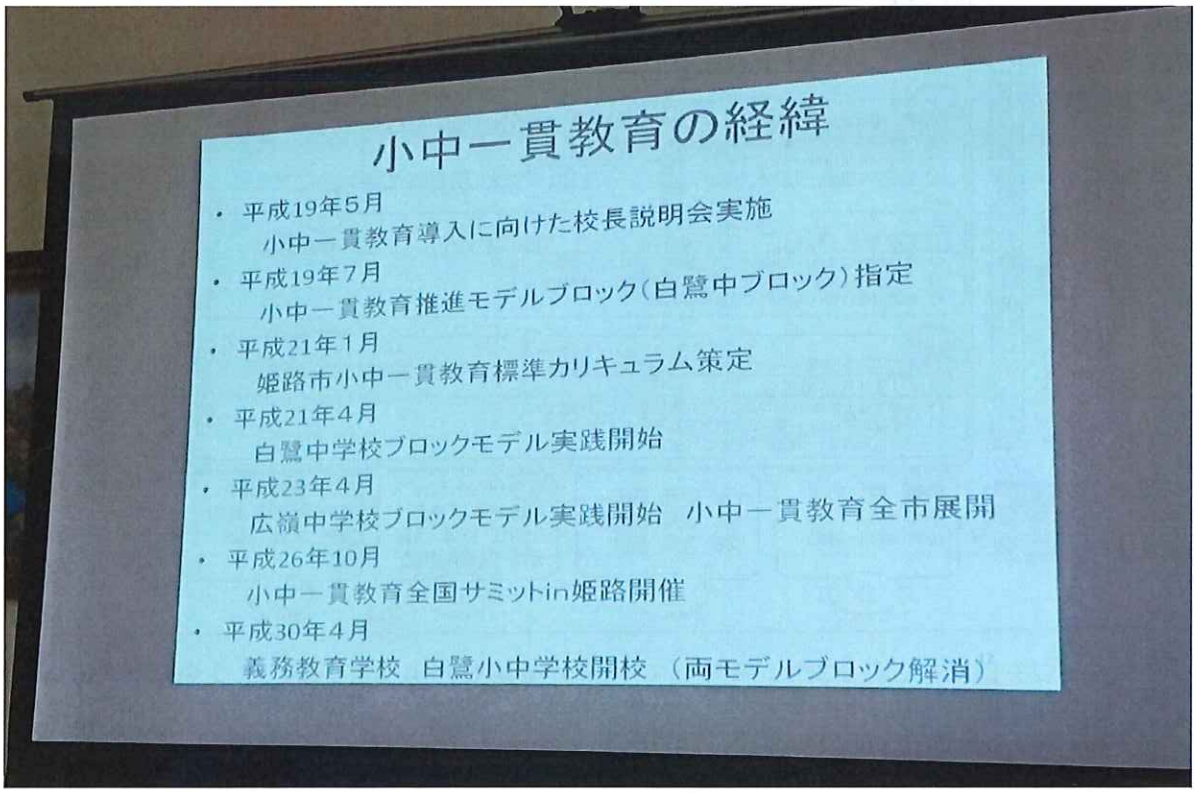
・そのために必要な「学力」と「人間関係力」を身に付けさせるために**「９年間を見通した一貫した指導**を行う。

・一人一人の教職員が個々に取組むのではなく、**「小学校と中学校の教職員が協働」**して取り組む。

保護者として・子どもの教育について、学校と家庭が協力して進めていかなければならないことはいうまでもない。家庭での生活は、学校、地域、そして社会へとつながっていきます。家庭では。小中学校と連携して、**子どもの成長段階に応じた基本的な生活習慣や学習習慣をしっかりと身に付けさせてください。また、地域社会の一員としての自覚がうながされるような声かけを子どもたちにしてください。**

学校応援団の**地域住民**として・地域には、保護者を含めた人材（ひと）、世界文化遺産姫路城をはじめとする史跡や地域特有の環境（もの）、そして、祭りなどの伝統行事や伝統文化（こと）が豊富です。成長の著しい義務教育期間に、子どもたちが、**地域の中で多様な学びと交流・体験によって豊かな成長がかなえられるよう、**中学校ブロック（中学校区）の**応援団として参画をお願いします。子どもたちは、将来の地域の担い手です。**

・姫路市が示す小中一貫教育の目標を定め、成果が分かるように（指標）を定めて今後の検証材料としていました。



写真のように、平成 21 年１月より小中一貫教育標準カリキュラムを策定し、10 年が経過し、ようやく姫路市でもセカンドステージへいくようです。

ポイント（目標と指標を記載します）

【進級進学の段差の軽減】

目標１　誰もが通いたくなる学校を目指します。

指標１　学校が楽しいと思う児童生徒の割合

指標２　進級・進学への不安がない児童生徒の割合

指標３　不登校児童生徒数（小学校６年時と中学校１年進学時の比較）

【学力の向上（キャリア教育の視点を含む）】

目標２　子供たちの学習意欲を高めます。

指標１　ＩＣＴ機器を活用するなどの工夫をした授業を実施している教職員の割合

指標２　国語、算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合

指標３　家庭でも勉強している児童生徒の割合

目標３　子供たちの学力について基礎的・基本的な力をつけます。

指標１　学校の授業の予習、復習をしている児童生徒の割合

指標２　学校の勉強がわかると答える児童生徒の割合

指標３　全国学力・学習状況調査　Ａ問題正解率の国との比較

目標４　子供たちの学力について活用する能力（思考力・判断力・表現力）を高めます。

指標１　資料を使って発表ができるように指導している教職員の割合

指標２　授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童生徒の割合

指標３　全国学力・学習状況調査　Ｂ問題正解率の国との比較

【人間関係力の育成（キャリア教育の視点を含む）】

目標５　子供たちの自尊感情を醸成します。

指標１　誰かに大切にされていると思う児童生徒の割合

指標２　自分には良いところがあると思う児童生徒の割合

指標３　将来の夢や目標のある児童生徒の割合

目標６　子供たちの社会適応力を育成します。

指標１　誰かに大切にされていると思う児童生徒の割合

指標２　学校や地域でいろいろな人とかかわりをもつことは大切だと思う児童生徒の割合

指標３　人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合

【言語活動の充実（キャリア教育の視点を含む）】

目標７　子供たちの言語に関する能力を高めます。

指標１　授業で、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることに肯定的回答をする児童生徒の割合

指標２　読書が好きな児童生徒の割合

指標３　普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると答える児童生徒の割合

【教育活動の土台】教職員の意識改革

目標８　教職員の意識改革・授業改善を図ります。

指標１　発達段階を重視した指導の具体化を図っている教職員の割合

指標２　つながりのある指導を重視した授業改善を行なっている教職員の割合

指標３　学年や校種の枠を超えて、連携を図っている教職員の割合

【教育活動の土台】地域連携

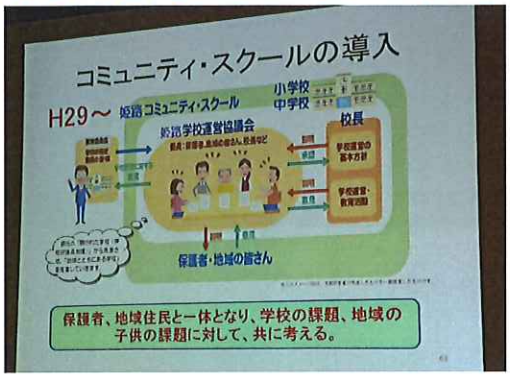
目標９　地域資源の活用を図ります。

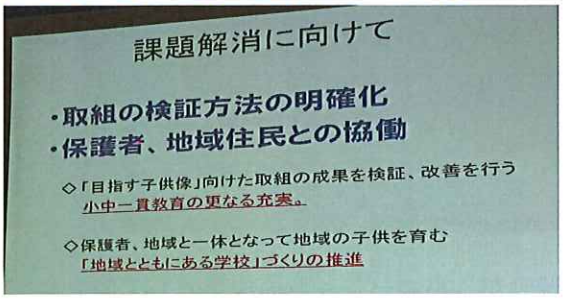
指標１　地域の人材を外部講師として招聘した授業を行っている教職員の割合

指標２　小中一貫教育の成果の一つとして、保護者・地域の参画を実感している教職員の割合

指標３　今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合

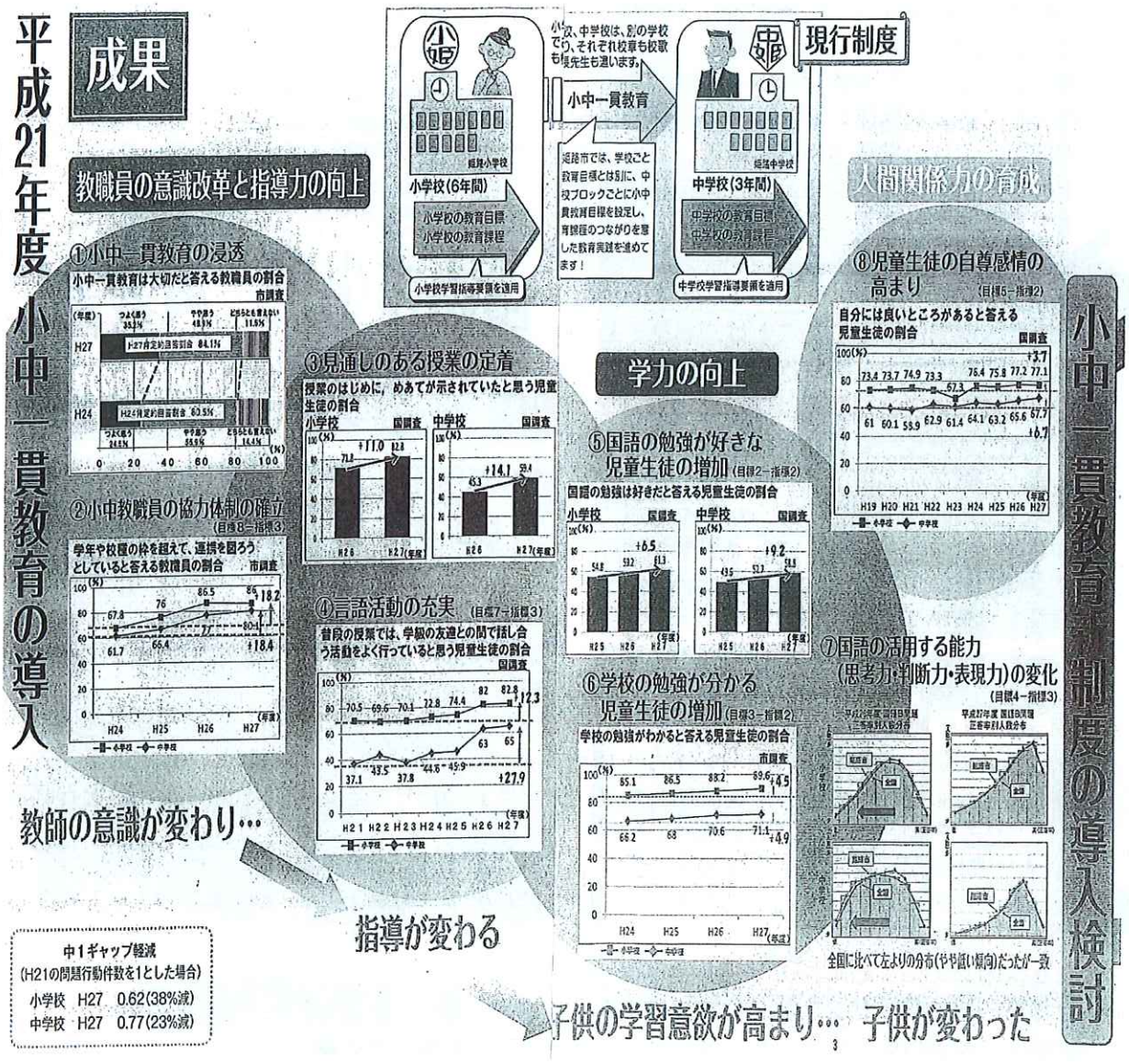
平成 29 年度にはコミュニティ・スクールを導入し更に地域連携が図られています。





地域との連携の重要性

１０年の成果ということで報告いただきました。



様々な活動が、小中一貫教育の成果として向上していると思いました。

１０年目の節目

ファーストステージからセカンドステージへ

ファーストステージ

小中一貫教育の日常化＝目指す子供像の共有（小中教職員）

セカンドステージ

①目指す子供像の共有

（小中教職員・保護者・地域住民）

②目指す子供像を具現化するカリキュラム　モデルブロックの発展的解消

姫路市小中一貫教育つながるカリキュラムの作成

「スタンダードカリキュラム」⇒学習の基盤となる力

・言語能力

・情報活用能力

・問題発見・解決能力

教育の特性を生かした教育課程の編成

「ブランドカリキュラム」⇒現代的な諸課題に対応する力

・児童や学校、地域の実態

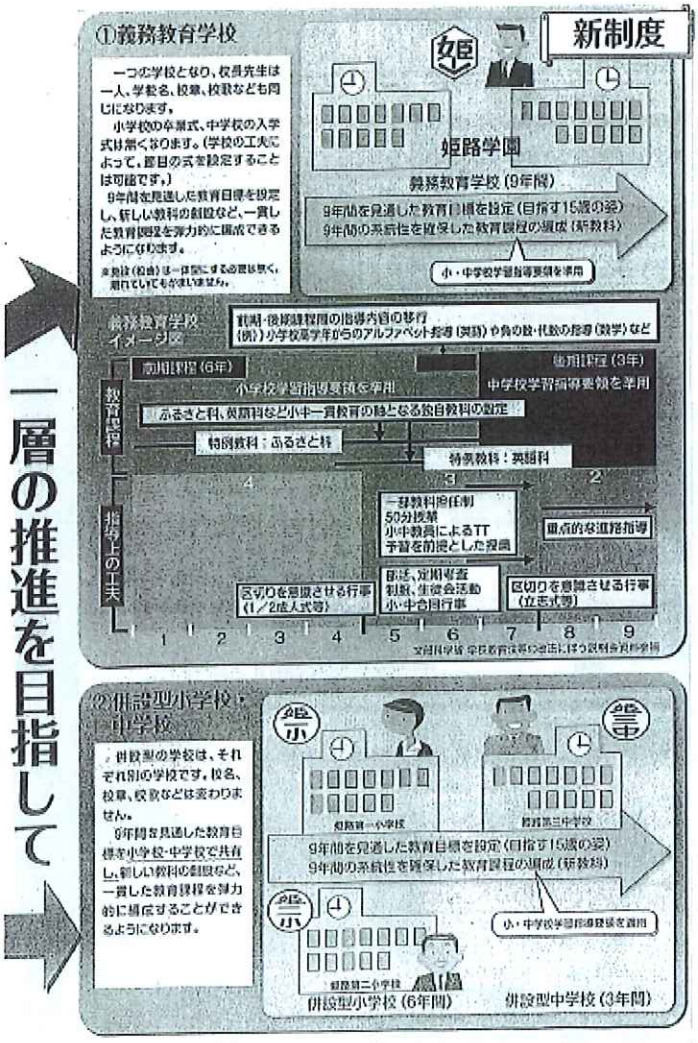
・児童の発達段階

学校の特性を生かした教育課程の編成

どちらのカリキュラムも「資質・能力」を育む

教科横断的な視点に立った資質・能力の育成

２０２０年２月発行予定だそうです。



まとめ

姫路市も導入１０年が経過してようやく成果として見えてきた感がありました。過度な期待を寄せるものではなく、【目指す子ども像】の育成に向けて、目的を明確にした「地道」で「丁寧」な教育活動を、計画的に、組織的に、そして継続的に進めていくことかと感じました。

以上